平成28～30年度

市内遺跡発掘調査報告書

2024.3

長野県伊那市教育委員会

平成28～30年度

市内遺跡発掘調査報告書

2024.3

長野県伊那市教育委員会

例　言

1. 本書は長野県伊那市が平成28年度から平成30年度に国宝重要文化財等保存整備費事業補助金を受けて実施した開発事業等に伴う試掘・確認調査報告書である。

2. 現地での調査及び報告書の編集・発行は伊那市教育委員会が行った。

3. 調査期間は調査ごと本文及び抄録に記載している。

4. 本報告書の執筆・編集は、各調査担当者と協議の上馬場保之が行い、濵　慎一が校閲した。

5. 本書掲載の関係資料等は伊那市教育委員会が管理し、伊那市創造館（伊那市荒井3520番地）で保管している。

目　次

第１章　市内遺跡発掘調査について
第１節　調査の概要 …… 1
第２節　調査体制 …… 1
（１）調査 …… 1
（２）指導 …… 1
（３）調査主体 …… 1

第２章　調査結果
第１節　北割遺跡 …… 4
第２節　春日城 …… 5
第３節　古屋敷遺跡 …… 6
第４節　一般国道153号伊那バイパス …… 7
第５節　高遠城跡 …… 9
第６節　一夜城 …… 10
第７節　ますみヶ丘上遺跡 …… 12
第８節　一般国道153号伊那バイパス …… 13
第９節　八幡屋敷遺跡 …… 15
第10節　老松場古墳群 …… 16
第11節　伊那養護学校北遺跡 …… 18
第12節　小黒南原遺跡 …… 19

抄録 …… 21

第1章　市内遺跡発掘調査について

第1節　調査の概要

平成18年3月31日に伊那市・高遠町・長谷村が合併し、新たな伊那市が誕生した。これにより伊那市内における周知の埋蔵文化財包蔵地は425箇所となっている。

伊那市教育委員会では、平成28～30年度中に埋蔵文化財包蔵地内で計画される開発行為について協議を行い、試掘・確認調査及び発掘調査が必要なものについて、年度毎に調査を実施した。

第2節　調査体制

(1) 調査

1) 平成28年度

調査担当者　早川　宏、　登内　茂利、　大澤佳寿子、　濵　慎一

作　業　員　小池　文男、　小松　勝司、　城取　良祐、　寺平　好久、　原　正一

2) 平成29年度

調査担当者　早川　宏、　登内　茂利、　大澤佳寿子、　濵　慎一

作　業　員　小松　勝司、　寺平　好久、　原　正一、　松下　則典

3) 平成30年度

調査担当者　早川　宏、　登内　茂利、　大澤佳寿子、　濵　慎一

作　業　員　伊東　一隆、　小松　勝司、　原　正一

4) 令和5年度

調査担当者　酒井　瑞夫、　濵　慎一、　大澤佳寿子、　馬場　保之

調　査　員　小池　孝、　平澤　正美

作　業　員　大蔵　巳夏、　竹村　泉、　濵　裕貴子、　堀内百合子

(2) 指導

文化庁　長野県教育委員会

(3) 調査主体　伊那市教育委員会

教　育　長　北原　秀樹　（平成28年度～30年5月）

笠原　千俊　（平成30年5月～令和5年度）

教育次長　大住　光宏　（平成28年度・29年度）

馬場　文教　（平成30年度）

三澤　豊　（令和5年度）

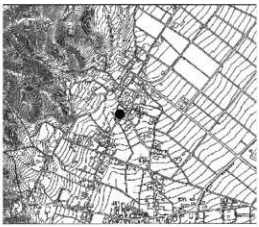
事務局　伊那市教育委員会　生涯学習課

生涯学習課長	小松　博康	（平成28年度～30年度）
	矢澤　浩幸	（令和5年度）
文化財係長	早川　　宏	（平成28年度～30年度）
	酒井　瑞夫	（令和5年度）
文化財係	登内　茂利	（平成28年度～30年度）
	濵　　慎一	（令和5年度）
	大澤佳寿子	（平成28年度～30年度、令和5年度）
	竹松　　亨	（平成30年度）
	有賀　敦香	（平成29年度～30年度、令和5年度）
	松下　則典	（　　〃　　）
	馬場　保之	（令和5年度）
	百瀬　京子	（　〃　）
	平澤　正美	（　〃　）
創造館係	濵　　慎一	（平成28年度～30年度）

1. 北割遺跡
2. 春日城
3. 古屋敷遺跡
4. 一般国道153号伊那バイパス
5. 高遠城跡
6. 一夜城遺跡
7. ますみヶ丘上遺跡
8. 一般国道153号伊那バイパス
9. 八幡屋敷遺跡
10. 老松場古墳群
11. 伊那養護学校北遺跡
12. 小黒南原遺跡

第2章　調査結果

第1節　北割遺跡



1　所　在　地　　伊那市西箕輪2487番地2

2　調査期間　　平成28年(2016)5月16日

3　調査面積　　24㎡

4　調査原因　　個人住宅建設

5　調査担当　　濱　　慎一、早川　　宏、登内　茂利

6　検出遺構　　なし

7　出土遺物　　なし

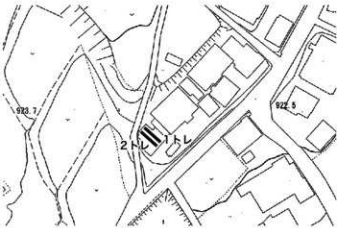
8　遺跡の環境

北割遺跡は、伊那市西箕輪地籍に所在する。天竜川の支流大泉川右岸段丘上に位置し、東西約360m南北約340mに広がる縄文・弥生時代の集落跡である。

9　調査の経緯と結果

個人住宅の建替において、深さ1.38mの土壌改良が行われるため調査を行った。

表土から約60cmは攪乱層であり、掘下げ部分ではやや固くしまったローム層となった。



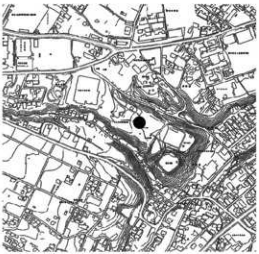
調査位置図

1トレンチ（東から）

2トレンチ（東から）

同　南壁土層堆積状況

第2節　春日城



1　所　在　地　　伊那市西町5935番地1

2　調査期間　　平成28年(2016)7月22日

3　調査面積　　24㎡

4　調査原因　　無線鉄塔設置

5　調査担当　　濱　　慎一、早川　　宏、登内　茂利

6　検出遺構　　なし

7　出土遺物　　なし

8　遺跡の環境

春日城は、伊那市西町地籍に所在している。天竜川右岸の段丘上に位置し、東西350m南北約290mに広がる中世の城館跡である。

9　調査の経緯と結果

春日公園内にあるラジオ中継所内に新たに設置される無線鉄塔の基礎範囲、幅4.2m、深さ2.6mを調査した。範囲内の北側において土坑と思われるものを検出したが、遺物出土はなかった。全容は範囲外となるため詳細は不明である。

既存中継所建設に当たり、表土から30cmの深さでアース線が多く埋設されていた。

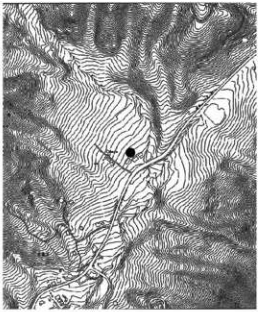
調査位置図

事業地全景

土坑検出状況

土坑調査状況

第3節　古屋敷遺跡



1　所　在　地　　伊那市高遠町藤澤7064番地1他

2　調査期間　　平成28年(2016)10月21日～10月24日

3　調査面積　　110㎡

4　調査原因　　太陽光発電施設(調整池)

5　調査担当　　濵　　慎一、登内　茂利

6　検出遺構　　なし

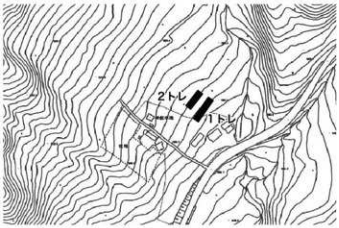
7　出土遺物　　なし

8　遺跡の環境

古屋敷遺跡は藤沢川右岸段丘上、藤澤地籍の北部に位置し、東西150m南北約190mに広がる縄文時代の散布地である。

9　調査の経緯と結果

遺跡の中央部に当たるが、林地内の散布地で詳細は不明である。調整池の掘削は最大深度が3.5mとなるため、調整池部分の調査を行った。表土から40cmから60cmの掘削でローム及び灰褐色粘土質の地山層となり、遺物の出土や遺構の検出はなかった。



調査位置図

1トレンチ(東から)

2トレンチ(南から)

2トレンチ(西壁)

第4節　一般国道153号伊那バイパス

1　所　在　地　　伊那市前原地籍
2　調査期間　　平成28年(2016)12月5日～12月20日
3　対象面積　　0.47ha
4　調査原因　　国道バイパス建設
5　調査担当　　濱　　慎一、早川　　宏、登内　茂利
6　検出遺構　　なし
7　出土遺物　　なし
8　遺跡の環境

今回の調査地は、天竜川左岸上牧、前原地区にひろがる段丘上の水田地帯である。

埋蔵文化財包蔵地とはなっていないが、200m南には、太平洋戦争中の旧陸軍伊那飛行場が存在した。

9　調査の経緯と結果

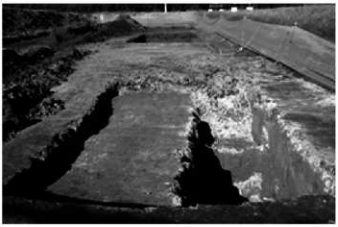
今回の調査では、国道153号伊那バイパス道路の道路事業地　延長約160m、幅約30mの範囲4区画(1区、4区、5区、6区)を調査した。南北に延びる路線の東西端に幅約3mのトレンチを設け、深さ30cmの耕土層を除去、また、一つのトレンチにつき2～3カ所、現地表面から約2m掘り下げ、遺構の有無を確認した。

その結果、全てのトレンチにおいて、約30cmの耕土層下は人為的な撹乱層であることが確認できた。これは、以前この調査区一帯において、コート紙原料用の大規模な白土(白色粘土化した御岳第1テフラ)の露天採掘が行われていたためである。遺構・遺物の検出はなく、調査区全域が白土採掘により撹乱されていることを確認した。

1区1トレンチ(南から)

1区2トレンチ(南から)

4区1トレンチの1（南から）



4区2トレンチ（南から）

5区1トレンチ（南から）

5区2トレンチ（南から）

6区1トレンチ（北から）

6区2トレンチ（南から）

第5節　高遠城跡

1　所　在　地　　伊那市高遠町東高遠2242-1

2　調査期間　　平成28年(2016)12月14日
　　～平成29年(2017)1月20日

3　調査面積　　100㎡

4　調査原因　　個人住宅建設

5　調査担当　　濱　　慎一、大澤佳寿子、登内　茂利

6　検出遺構　　武家屋敷跡

7　出土遺物　　近世陶器片

8　遺跡の環境

高遠城跡は、伊那市高遠町東高遠地籍に所在する。

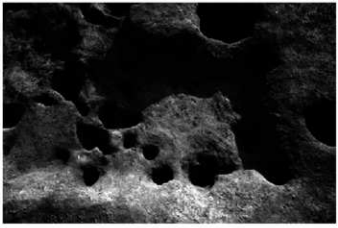
当該地は三峰川右岸段丘上で、高遠町地籍の西部に位置し、東西370m南北約250mに広がる縄文、中世、近世時代の散布地及び城跡である。

9　調査の経緯と結果

調査地は高遠城跡の包蔵地範囲の南東部に当たる。

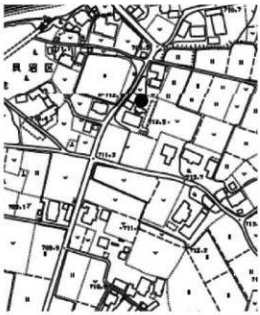
個人住宅の建設において、ベタ基礎の最大深度は現況地盤より720㎜となり、敷地内の表土切り盛り範囲において調査を行った。当該地は近世の絵図等で高遠藩の武家屋敷が存在していたことがわかっていた。また屋敷の間取り図も存在している。調査の結果、間取り図で流しの間となっていた地点からは5～50㎝大の石が敷き詰められている状況や便所の痕跡である土坑等を確認した。遺物は武家屋敷に伴うであろう近世の陶磁器が多数出土したほか、屋敷のほぼ中央部、大黒柱があった場所からは石臼の下半分が水平に埋められた状態で出土した。この他、時期不明であるが東西方向に掘られた幅約1mの溝を検出した。

調査区　西北　トイレ跡(西から)



茶の間　土壙列

第6節　一夜城



1　所　在　地　　伊那市富県5640-2

2　調査期間　　平成29年(2017)3月6日～4月25日

3　調査面積　　160㎡

4　調査原因　　個人住宅建設

5　調査担当　　濵　　慎一、早川　　宏、大澤佳寿子
　　登内　茂利

6　検出遺構　　なし

7　出土遺物　　なし

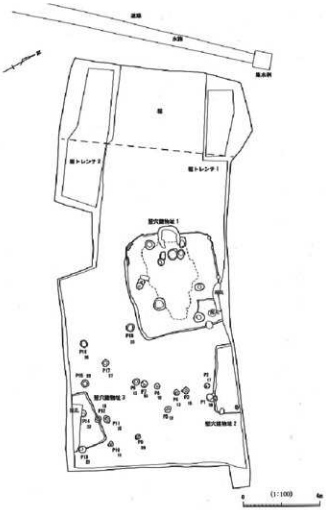
8　遺跡の環境

調査地は、三峰川左岸富県地区にひろがる段丘上の住宅及び農地地帯となっている。

埋蔵文化財包蔵地とはなっていないが隣接地が一夜城遺跡となっており、これまでの調査結果から、一夜の城の堀や平安時代の竪穴建物址が存在する可能性が高いため、調査を行った。

9　調査の経緯と結果

今回の調査では、一般住宅の建設工事に伴い、南北約8m、東西約20mの範囲を調査した。まず、城跡に伴う堀の存在を確認するため、調査地東端から南北約2.5m、東西約7.5mのトレンチ2本を設け調査を行った。その結果、両トレンチで幅約4m、深さ2.7mの堀の東側半分に相当する部分を検出した。土塁の位置から幅約8.5mの堀があったと推定できる。また平成24年の調査で堀の改修痕跡と考えた、最深部が深く窪んだ幅広いU字形の形状をそれぞれのトレンチで再び確認することができた。しかし、城跡に関連する遺物の出土は見られなかった。また、堀の遺構の東側では、平安時代の竪穴建物址3棟を検出した。1号建物址は1辺4.5mを測り、東端中央部でカマドを検出した。2号建物址は調査地の北東において1辺3.5mを測る遺構の一部を検出した。3号建物址は調査地の南東において1辺2.7mを測る遺構の一部を検出した。遺物はそれぞれの建物址に伴う、灰釉陶器、土師器が出土した。この他の遺構としては時期不明の柱穴、遺物としては遺構には伴わないが縄文土器片が多数出土した。



遺構全体図

調査区全景（東から）

竪穴建物址１

竪穴建物址２

２トレンチ（南壁）

第7節　ますみヶ丘上遺跡

1　所　在　地　　伊那市ますみヶ丘6949-2

2　調 査 期 間　　平成29年(2017)5月8日～5月9日

3　調 査 面 積　　100㎡

4　調 査 原 因　　伊那西小学校多目的施設建設

5　調 査 担 当　　濵　慎一、早川　宏、登内　茂利

6　検 出 遺 構　　なし

7　出 土 遺 物　　なし

8　遺跡の環境

今回の調査地は、当該地は小沢川右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡は、東西方向約480m南北方向約380mに広がる縄文時代および中世の集落跡である。

9　調査の経緯と結果

今回の調査では、伊那西小学校多目的施設建設事業地である南北約23.5m、幅約12mの範囲に南から3本のトレンチを設定し調査した。各トレンチでは、南北長約4m、東西長7～9m、深さ約2.7mを掘削し、遺構の有無を確認した。1トレンチ、2トレンチでは地表面より約1.9mの深さまで、現代の盛り土がされており、その下に約50cmの旧地表面である黒色土層が見られた。黒色土層の下でローム層を確認し、20cm～50cm掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。最も北に設定した3トレンチでも基本的な層序は1トレンチ、2トレンチと同様であったが、トレンチ内東部の一部を除いて、現代の建物や基礎により、地表面から2.5mの深さまで撹乱が及んでいた。この3トレンチでも遺構・遺物は確認できなかった。

調査地全域に現代の盛り土があり、地表面より約1.9m下に旧地表面及び地山層が存在するが遺構・遺物は見られないことを確認し、調査を終了した。

1トレンチ（西から）

2トレンチ（南壁）

第8節　一般国道153号伊那バイパス

1　所　在　地　伊那市上牧地籍

2　調査期間　平成29年(2017)12月19日～12月26日

3　対象面積　0.72ha

4　調査原因　国道バイパス建設

5　調査担当　濱　慎一、早川　宏、唐木　芳樹　登内　茂利

6　検出遺構　なし

7　出土遺物　なし

8　遺跡の環境

調査地は、天竜川左岸上牧、前原地区にひろがる段丘上の水田地帯である。

埋蔵文化財包蔵地とはなっていないが、200m南には、太平洋戦争中、陸軍伊那飛行場が存在した。

9　調査の経緯と結果

今年度の調査では、国道153号伊那バイパス道路の道路事業地、延長約240m、幅約30mの南北に延びる路線範囲内に、東西端と中央に幅約3mのトレンチ3本を設定し調査した。各トレンチ、深さ約20cmの耕土層とその下層約30～50cmの深さを全体的に掘削、さらにトレンチの一部を2～3カ所、現地表面から約2m掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

その結果、調査区内東に設定した3トレンチで、昨年度までの調査と同様に調査区全域の耕土層下は人為的な攪乱層であることを確認した。これは、以前この調査区一帯において、コート紙原料用の大規模な白土(御岳第1テフラ)の露天採掘が行われていたためである。しかし、西に設定した2トレンチ南端、中央に設定した1トレンチ北端では、旧表土と見られる厚さ約10～30cm暗褐色土と、その下層にローム層が見られ、採掘範囲の北端を確認することができた。遺物は1トレンチで近世の磁器片1点、鉄釘1点、3トレンチで近世の磁器片1点が出土したが、攪乱層内からの出土であり、遺構に伴うものではなかった。

調査区全景（南から）

1トレンチ全景（南から）

1トレンチ北端地山層（東壁）

2トレンチ全景（南から）

2トレンチ南端地山層（西壁）

3トレンチ全景（南から）

第9節　八幡屋敷遺跡

1　所　在　地　　伊那市高遠町長藤4881
2　調査期間　　平成30年(2018)6月1日～6月6日
3　調査面積　　63.5㎡
4　調査原因　　個人住宅用倉庫建設
5　調査担当　　濱　　慎一、早川　　宏、登内　茂利
6　検出遺構　　焼土
7　出土遺物　　なし
8　遺跡の環境

調査地は、黒沢川が藤沢川へ合流する扇状地の中央に位置する縄文・古墳時代の散布地である。平成8年にほ場整備工事に伴う発掘調査で12000㎡の範囲を調査し、縄文時代中期の竪穴建物址13棟、平安時代の竪穴建物址2棟等を検出している。

今回の調査地は、前回の調査地から南へ20m離れた場所で、埋蔵文化財包蔵地の南西端にあたり、農地として使用されていた。

9　調査の経緯と結果

住宅用倉庫の建設に伴い、南北8.8m、東西7.2mの範囲内に東西方向のトレンチを南北に2本設定し調査を行った。1トレンチの南壁際は幅50cm、5.4mの長さで50cm下までさらに掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。

その結果、1トレンチ、2トレンチともに深さ約20cmの耕土層があり、その下層でローム層の地山を確認した。1トレンチにおいては、トレンチ東端で地山直上に直径約40cm、深さ約10cmの焼土を検出した。焼土中やその周辺から遺物等の出土は見られず、時期の特定はできなかった。その他の地点でも遺構・遺物は確認できなかったため、試掘のみで調査を終了した。

1トレンチ（東から）

2トレンチ（東から）

第10節　老松場古墳群

1　所　在　地　　伊那市東春近924

2　調 査 期 間　　平成30年(2018)8月6日～9月7日

3　調 査 面 積　　108㎡

4　調 査 原 因　　学術調査

5　調 査 担 当　　濵　慎一、早川　宏、登内　茂利

6　検 出 遺 構　　葺石、墳丘基底石

7　出 土 遺 物　　古墳時代土器片4点

8　遺跡の環境

調査地は、天竜川左岸、三峰川左岸の両河川によってできた河岸段丘上に位置する。老松場古墳群は7基の古墳群からなるが、この古墳群を最北端として南に延びる段丘上には、現在も33基の古墳が残る。老松場古墳群を含め、これらの古墳群は全て古墳時代後期以降の築造とされてきた。

前年度の測量調査では、老松場1号墳が前方後円墳であり墳形から4世紀末から5世紀初頭の築造であること、老松場7号墳は市内最大級の円墳であることが確認された。

9　調査の経緯と結果

前年度の測量調査に続き、関西大学文学部考古学研究室とともに、墳形や築造時期の確認のための調査を行った。1号墳にトレンチを5か所、2号墳にトレンチを2か所、古墳群から外れた北東隅に基本層序を確認するためのトレンチを1か所設定した。

1号墳では、第1・2トレンチで後円部の範囲確認と主体部の状況確認を行い、第3・4トレンチで前方部の範囲確認を行い、第5トレンチでくびれ部の状況の確認を行った。全てのトレンチでこれまで無いとされていた葺石を検出し、第1～4トレンチでは基底石を検出し全長32m、後円部径20m、前方部長12mの墳丘規模を確認することができた。また第5トレンチではくびれ部を検出し、葺石の状況から前方後円墳であることを発掘調査においても確認することができた。

2号墳では円墳の中心から北と東に10mのトレンチを入れ、墳丘規模と葺石の存在を確認することができた。

1号墳、2号墳ともに樹根による攪乱は見られたが、盗掘坑など人工的な攪乱は見られず、主体部の残存状況は良好であると考えられる。

基本層序トレンチでは、20cm前後の表土層の下で、約70cmのローム層、その下には段丘上を三峰川が流れていた時期の礫層を検出した。老松場古墳群の葺石はこの礫層のものを使用していると考えられる。

なお、トレンチは、次年度の拡張調査に備え、土嚢とシートで保護し埋め戻した。

1号墳全トレンチ（上が北）

1号墳第1トレンチ葺石検出状況

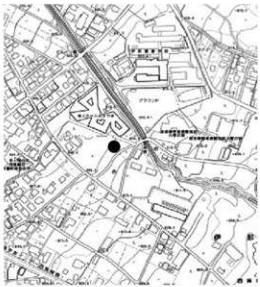
1号墳第4トレンチ（南から）

1号墳第5トレンチ全景（南東から）

2号墳全トレンチ（上が北）

基本層序トレンチ（北から）

第11節　伊那養護学校北遺跡



1　所　在　地　　伊那市西箕輪8040-59
2　調査期間　　平成30年(2018)11月26日～12月14日
3　調査面積　　395.1㎡
4　調査原因　　上伊那福祉協会駐車場建設工事
5　調査担当　　濵　慎一、早川　宏、登内　茂利
6　検出遺構　　なし
7　出土遺物　　なし
8　遺跡の環境

調査地は、木曽山脈経ヶ岳に水源を持つ天竜川支流の大清水川右岸の段丘上に位置し、東西方向約460m南北方向約420mに広がる旧石器時代の散布地である。平成22・23・25年に包蔵地内の発掘調査を行っているが、遺構・遺物の出土は認められていない。

今回の調査地は、包蔵地の南端部にあたり、緩い傾斜を持つ山林である。

9　調査の経緯と結果

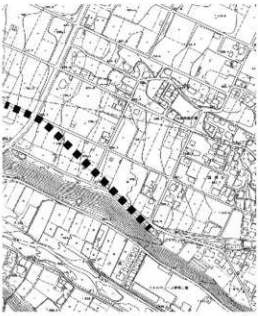
調査は、駐車場造成地である敷地面積1650㎡の範囲に、3本のトレンチを設定し調査した。樹木の伐採は済んでおり、樹根の抜根を行いながら、各トレンチ、幅3m、深さ約1～2mで掘削し、遺構の有無を確認した。1トレンチは52.1m、2トレンチは54.1m、3トレンチは25.5mの長さを調査した。各トレンチ、所々に樹根による攪乱層が見られたが、基本層序は地表面より約30～50cmの深さまで表土、その下は最大径20cmの礫や砂礫・粗砂、シルト層など河川堆積層が厚く堆積していた。調査地は北西から南東へ比高差2mほどの傾斜地であり、40m北には大清水川が流れる。今回検出した河川堆積は大清水川の旧流路であったことを示すと考えられる。

調査地全域が河川堆積層であり、遺構・遺物、また地山層も見られないことを確認し、調査を終了した。

調査区位置図

2トレンチ南西壁

第12節　小黒南原遺跡



1　所　在　地　伊那市西町地籍

2　調査期間　平成31年(2019)2月12日～3月31日

3　調査面積　624.6㎡

4　調査原因　市道環状南線改築工事

5　調査担当　濱　　慎一、早川　　宏、登内　茂利

6　検出遺構　溝址(時期不明)

7　出土遺物　縄文時代石斧2点、平安時代土師器片2点、近代陶磁器片4点

8　遺跡の環境

遺跡は小黒川左岸の段丘上にあり、南北400m、東西450mに広がる旧石器・縄文時代の散布地である。この遺跡の西に面して3基の古墳があり、さらに西には、旧石器～平安時代の集落跡である伊勢並遺跡、縄文時代の散布地である赤坂遺跡がある。平成9年、今回の調査地内を南北に通る広域農道の整備の際に、750㎡の調査を行っているが、遺構の検出はなく、旧石器～近代の遺物20点が出土したのみである。

今回の調査地は包蔵地の南東部分にあたり、畑地と道路になっている。

9　調査の経緯と結果

今回の調査は、伊那市特定道路推進課が実施する市道環状南線改築工事に伴い、道路計画幅に沿って東西端にトレンチを設定し、試掘を行った。既存道路や畑地灌漑施設があるため、調査区全体を5区に分け、それぞれに可能な範囲のトレンチを設定した。1区から5区までの基本層序は全て、地表面より30～50cmの耕土層があり、その下は地山であるローム層であった。

1区には長さ88m、幅2mの第1トレンチ、長さ59.7m、幅2mの第2トレンチを設定した。所々に深く掘られた溝や穴が見られたが、畑作等に関係する現代の攪乱層であった。しかし、両トレンチの中央部で、攪乱層ではない2つのトレンチを横断する溝址を検出したため、この地点を南北15m、東西10mの範囲で調査区を拡張し、溝全体の調査を行った。溝は上部幅2.4m、底部幅1.7mの逆台形を呈し、残存する深さ80cmで、地山であるテフラ層を掘り下げるものであった。溝は、調査区内で約10mを検出したが、北東から南西方向に3cmの高低差でわずかに傾斜するのみであった。遺物は第1トレンチの溝直上で平安時代のものと考えられる土師器片を2点検出したのみで、遺構の時期を特定することはできなかった。土層からはこの溝が徐々に自然に埋まっていったことがわかるが、用途や時期は今後の周辺の調査で明らかにしたい。

2区には長さ24.6m、幅1mのトレンチを設定したが、トレンチ北側は畑地灌漑施設の工

事による撹乱層であった。3区には長さ41.3m、幅2mのトレンチを設定した。4区、5区には道路の拡幅の形状に合わせ、南北方向と東西方向のトレンチをそれぞれ1m幅で設定した。4区では5か所に計68.9mのトレンチ、5区では3か所に計55.6mのトレンチを設定した。2区～5区までそれぞれ地山層下まで調査を行ったが、遺構・遺物の検出はなかった。また、1区と同様、所々に深く掘られた溝や穴が見られたが、畑作等に関係する現代の撹乱層であった。

1区1トレンチ（東から）

1区2トレンチ溝検出状況

1区　溝断面（南から）

1区　溝完掘状況（北から）

2区トレンチ（西から）

3区トレンチ（東から）

抄　録

ふりがな	へいせいにじゅうはちからさんじゅうねんどしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成28～30年度市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	伊那市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	第13集
編著者名	濵　慎一・馬場　保之
編集機関	長野県伊那市教育委員会
所在地	〒396-8617　長野県伊那市下新田3050番地　℡.0265-78-4111
発行年月日	令和6年(2024)3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
北割遺跡	伊那市 西箕輪 2482-7	20209	6	35° 53′ 29″	137° 55′ 10″	2016. 5.16	24㎡	個人住宅 試掘調査
春日城	伊那市 西町 5935-1	20209	315	35° 50′ 15″	137° 56′ 52″	2016. 7.22	24㎡	無線鉄塔 試掘調査
古屋敷遺跡	伊那市 高遠町 藤澤7064-1 他	20209	365	35° 57′ 54″	138° 07′ 02″	2016.10.21 ～ 2016.10.24	110㎡	太陽光発電 施設 試掘調査
(国道153号 伊那バイパス)	伊那市 前原	20209	—	35° 51′ 22″	137° 59′ 29″	2016.12. 5 ～ 2016.12.20	対象 4,700㎡	国道バイ パス建設 試掘調査
高遠城跡	伊那市 高遠町 東高遠 2242-1	20209	386	35° 49′ 56″	138° 03′ 51″	2016.12.14 ～ 2017. 1.20	100㎡	個人住宅 試掘調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
一夜城	伊那市 富県 5640-2	20209	344	35° 49′ 24″	138° 00′ 06″	2017. 3. 6 ～ 2017. 4.25	160㎡	個人住宅 発掘調査
ますみヶ丘上 遺跡	伊那市 ますみヶ丘 6949-2	20209	58	35° 50′ 48″	137° 54′ 58″	2017. 5. 8 ～ 2017. 5. 9	100㎡	小学校多 目的施設 試掘調査
(国道153号 伊那バイパス)	伊那市 上牧	20209	—	35° 51′ 28″	137° 59′ 29″	2017.12.19 ～ 2017.12.26	対象 7,200㎡	国道バイ パス建設 試掘調査
八幡屋敷遺跡	伊那市 高遠町 長藤4881	20209	375	35° 52′ 59″	138° 05′ 39″	2018. 6. 1 ～ 2018. 6. 6	63.5㎡	個人住宅 倉庫建設 確認調査
老松場古墳群	伊那市 東春近 924	20209	243	35° 48′ 41″	137° 57′ 35″	2018. 8. 6 ～ 2018. 9. 7	108㎡	学術調査
伊那養護 学校北遺跡	伊那市 西箕輪 8040-59	20209	15	35° 52′ 38″	137° 55′ 53″	2018.11.26 ～ 2018.12.14	395.1㎡	駐車場 確認調査
小黒南原遺跡	伊那市 西町	20209	73	35° 50′ 02″	137° 56′ 23″	2019. 2.12 ～ 2019. 3.31	624.6㎡	市道環状 南線 確認調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特　記　事　項
北割遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代	なし	なし	
春日城	城館跡	中世	土坑	なし	・時期不明の土坑と考えられる遺構を確認した。
古屋敷遺跡	散布地	縄文時代	なし	なし	
(国道153号 伊那バイパス)	包蔵地外	—	なし	なし	・調査区全域が白土採掘により攪乱されている。

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特　記　事　項
高遠城跡	城館跡	縄文時代 中世 近世 時期不明	武家屋敷跡 溝	近世陶磁器片	・武家屋敷のほぼ中央部、大黒柱があった場所からは石臼の下半分が水平に埋められた状態で出土した。 ・東西方向に掘られた幅約1mの溝を検出した。
一夜城	城館跡	縄文時代 平安時代 中世	 竪穴建物址 堀	土器・石器 土師器 須恵器 灰釉陶器	・平安時代の竪穴建物址3棟を調査した。 ・東辺堀の外側肩が確認され、堀の規模を把握できた。
ますみヶ丘上遺跡	散布地	縄文時代 中世	なし	なし	・建設地全域に現代の盛土があった。
(国道153号伊那バイパス)	包蔵地外	近世	なし	磁器片 鉄釘	・コート紙原料用の大規模な白土の露天採掘による撹乱を確認した。
八幡屋敷遺跡	散布地	時期不明	焼土	なし	・焼土以外遺構・遺物は確認できなかった。
老松場古墳群	古墳	古墳時代	1号墳 2号墳	土師器	・葺石、くびれ部を検出。全長32m、後円部径20m、前方部長12mの前方後円墳であることが判明した。 ・円墳で、葺石と規模を確認した。
伊那養護学校北遺跡	散布地	旧石器時代	なし	なし	・大清水川の旧流路であったと考えられる。
小黒南原遺跡	散布地	縄文時代 平安時代 近代 時期不明	 溝址	石器 土師器 陶磁器	・時期不明の溝址が確認された。

伊那市埋蔵文化財報告　第13集

平成28～30年度

市内遺跡発掘調査報告書

令和6年（2024）3月

編集・発行　長野県伊那市教育委員会

印刷・製本　㈱プリンティアナカヤマ